

街を皆で“niji-iro”に  
その種を届けるニュースレター

# にじのたね Vol. 7

多様な性のあり方を知る【ともに育つ・ともに生きる②】

夫婦としてスタートし、婦婦に。  
思いがけない変化も力に変えて。

“夫が女性として生きることを選択した”ことをきっかけに、柔軟に考え方や役割を変えながら暮らすご夫婦に出会いました。大切な人のありのままを承認し、互いに自分らしく、自立した生活を送ることはどんな形でもできるということを、体現しようとするおふたり。力を出し合ってたくましく暮らしてきたこれまでの話をうかがいました。

インターネットで世界が変わったことが転機に

女性として生きることを選択し、戸籍名を改名。男性として勤めていた職場にも意思を伝え、今はありのままの姿で働いているななみさん。成人した2人のお子さんの父親でもあります。

「女性になりたい気持ちは幼い頃からあったものの、当時は“男は男らしくあれ”という時代。情報もなく、自分の頭がおかしいのだと思っていました。パソコンを買い、自分の気持ちを検索してみると同じ思いの人がたくさんいるという事実を知り、世界が一変しました。輸入代行を利用して女性ホルモンを飲み始め、しばらくしてから妻にカミングアウト\*1。子どもが幼かったこともあり、10年くらいはダボっとした服を着て体の変化を隠していました。女性ものを買うようになったのはここ6年ぐらいの話です。」

女性として生きるようになり、今の状態が心地良いと感じているというななみさんですが、ここに至るまで妻のゆかりさんとは離婚も提案しながら何度も話し合い、葛藤が続いたと言います。



ご自宅はゆかりさんのご実家の敷地内。緑豊かな環境で暮らしています



娘さんの成人式は、一緒に着物を着て写真を撮りました

父の選択に対して、家族の思い

「見た目も考え方も途中から変わったので、家族の負担は大きかったと思います。迷惑をかけるという思いも強かったですね。」

いよいよ、女性としてオープンに生きることを決断した時、子ども達は高校生。娘さんは「何となく分かってたよ」、息子さんは「それってもう治らないの?」と話していたそう。息子さんのショックは大きかったのではないかと、とななみさんは感じています。ゆかりさんは早くから共に生きることを決断していたようです。

「一度きりの人生、がまんして欲しくなかった。結婚の時、“人と違う生き方をさせる”と言われましたが、まさかこんなことに、とは思いましたよ。でも、それまでも普通は経験できないようなことを一緒にしてきたので、ありがたじやないのも面白いかなと。」

中面へ続く



## 丸ごと引き受け、共に乗り越える

男性として生きなければならないことに悲しみを抱えていたななみさん。いつも苛立ちがあり、怒りっぽかったと言います。女性として生きはじめ“怖さがなくなって、丸くなった”ことで子ども達とのコミュニケーションが深まったそう。“姿が変わっても父親でいて欲しい”という子ども達の願いにも応える形で、ななみさんは父親としての自分、女性であろうとする自分、両方を受け入れてきました。“生きていても面白くなかった”という日々から、父親、母親、主婦(主夫)と柔軟に役割を変えながら、ふたりで子育てや家事、仕事をやりくりする日常に。次第にななみさんは、それまでになかった生きがいを感じるようになっていったようです。

「自分一人で生きていたら、もっと弱い人間だったかもしれない。」とななみさんは言います。共に生きようとした家族、形が変わっても父親の責任も果たし続けようとしたななみさん。互いの決意と信頼が、時間をかけて固まってきたことが伝わります。

## 相手の気持ちも理解して、社会に溶け込む

職場では真摯に仕事に向き合ってきたことが自分の身を助けてくれました。

「見た目が変わって働き方が変わるとは思わない。俺が全責任を持つ」という社長の言葉に励まされ、社内でも現場でも一層努力を重ね信頼を維持しました。

「自信のない姿は誰も受け入れてくれないと学び、3年、5年とコミュニケーションを重ね、自分なりの振舞い方を身につけました。新しい現場でも10回、20回通うと普通に接してくれる。お菓子持ってけ、ジュース飲んでけて可愛がってもらえるようになりました。」

女性としてみられることを相手に要求しない。自分自身の心を大切に、女性らしさが自然に表れるようになれば、相手も自然に接してくれるという事を学んできたそう。生活を守るため、長く働き続けるために、今も社会に溶け込む努力を続けています。

## 法との格闘も経て、選択した今とこれから

法律<sup>※2</sup>など様々な壁があり、望みを全て叶えることはできない。多くの葛藤を経て、自己決定<sup>※3</sup>してきました。



「こういう夫婦でも人並み以上にやっているところを見せたい」というゆかりさん。「一緒に歩くことを恥ずかしいと思わないでくれる」とななみさん



ある日の食卓メニュー。ななみさんの料理はバリエーション豊富で家族に好評。仲間ともSNSで写真を共有し、交流にも役立っています。「台所に立てることが幸せ」というななみさん。料理は生きがいのひとつとなっているようです。

1 厚切り豚ロースカツ丼 2 キムチとニンニクの芽の玉子綴じ  
3 野菜スープ 4 ネギ納豆 5 春菊の胡麻和え 6 白菜の浅漬け

「ひとりじゃないんで、今の状態が限界かなと思っています。制度が柔軟になることを願ってはいるけれど、それよりも“自分が楽になる方法”を模索しました。情報を収集し、知識を得て、利用できることは利用して、自分が納得できるところまではやった。あとは、暮らし、仕事、遊び、すべてを全力でやるだけです。」

息子の大学卒業まで、ふたりで頑張ることが目下の目標。休日は花見、旅行、野球観戦など、たくさんの仲間と盛り上がります。選挙にも行く、生活を整える、老後のため貯金もする…。当たり前の暮らしを守り、ささやかな楽しみを続けていければ、誰にも恥ずかしくない。そんな思いで頑張りたいという、ななみさんとゆかりさんです。

多くの偏見がある社会の中で、自由に選択し、本当の意味で自分を大切にしたいと思う時、支え合う存在の大きさは計り知れない。力を合わせて暮らしを作り上げていくことで、その人らしさも同時に表現できるようになっていくということをおふたりの営みやおふたりを支える人たちから学ぶことができます。

家族、地域のあり方から見つめ直しながら、それぞれの生き方を尊重し、ありのままを表現できるまちに近づけていきたいですね。

※1・※2・※3…いずれも右ページ参照





# nijiiro learning ~多様な性についてまなぶ~

## ●トランスジェンダーと性同一性障害

出生時に届け出た性別と違う性を生きている人、生きようとする人がトランスジェンダーです。そのあり方は多様で、診断を必要とする人・しない人、ホルモン投与や性別適合手術など医療的措置を望む人・望まない人、戸籍の名前や性別の変更をする人・しない人など、それぞれが自分のライフスタイルに沿って必要なものを選択しています。

性同一性障害の診断や右欄の特例法施行などは、医療・社会体制の整備がなされるようになってきたという画期的な出来事でした。しかし、多様なトランスジェンダーが自らの人生を自己決定していくためには、法律や医療、福祉など社会体制が整備され、より多様なライフスタイルに対応できるようにしていくことが望まれます。

性別適合手術が2018年から保険適用になるなど、制度は整いつつありますが十分な体制になるにはまだ検討が必要です。



## ●カミングアウト

最近では広く使われるようになりましたが、本来は性的指向や性自認など、自身の性のあり方について伝えることを指します。周囲との関係を自分がどのように作っていくかという人生で重要な営みです。

親密な関係にある人に自分のことをわかってもらいたいというもの、職場や学校など生活圏に対応を求めるためのものなど、目的や範囲は様々です。また、家族へのカミングアウトはこれら双方の性格を持ちますが、本人にとって特に様々な思いを伴うものとなります。誰に、いつ、どのようにカミングアウトするかは、その人の生き方によって自己決定していくものです。強制されるものではありませんし、カミングアウトしないという選択もあります。また、本人の意思に基づかず第三者が勝手に行うものはアウトティングといわれ、本人が精神的・社会的なダメージを受けることもあり、してはいけないこととされています。



単に秘密を打ち明けるというようなニュアンスではなく、繰り返し必要なことを伝え、関係を再構築していきます。

## ●性同一性障害者特例法

性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律

2003(平成15)年に制定された法律で、「定義」の中で「二人以上の医師の診断が一致している」ことを求め、「性別取扱いの変更の審判」第三条には、以下のように記されています。

- ① 二十歳以上であること。
- ② 現に婚姻をしていないこと。
- ③ 現に子がないこと。
- ④ 生殖腺が無いこと又は生殖腺の機能を永続的に欠く状態であること。
- ⑤ その身体について他の性別に係る身体の性器に係る部分に近似する外観を備えていること。

成立ののち、③の「子」の要件が「未成年の子」に緩和される見直しがありました。しかし、医療の位置づけが性別違和・性別不適合と脱病理化されていることや、国連勧告で手術要件が問題視されていることなどに対する見直しは今後の課題です。②の非婚要件や、性別変更後にしか婚姻できない状況は、婚姻の平等に関する議論にも関連してくる問題です。

## ●自己決定

どんな生き方をするか、十分な情報を得て周囲から尊重され強制されずに自分のペースで意志決定していくことを意味する言葉です。

多様な性のあり方を前提としてともに生きていくためには、それぞれの人が自己決定できる社会的環境が必要です。それは同時に、人々が自分という存在のかけがえのなさを実感できる「本来感」をはじめ、周囲の人間関係や社会制度の力をかりながら、自分自信を大事にしていることとする「自己肯定感」や「自尊感情」を持てるようになることでもあります。

誰もが自分らしい生き方を選択できる社会をつくるためには、それぞれの自己決定を支える環境を整えていくことが大切です。





# nijiro topics

## ■コミュニティスペース『にじのひろば』

にじいろ協働事業では、多様な性のあり方の情報に触れ、参加者どうして話し合えるコミュニティスペース「にじのひろば」を開設します。多様な性のこと一緒に考えてみませんか？

日 時：毎月第4日曜日 13:30～17:30

2020年 2月23日、3月22日

会 場：エル・パーク仙台 5階 創作アトリエ

参加費：無料 どなたでもご参加ください

(開催時間内出入り自由)



### ●安心できる場です

- ・呼んで欲しい名前を決めておきましょう。本名でなくて構いません。
- ・自分のことは話しても話さなくても大丈夫です。
- ・他の人のプライバシーを守りましょう。自分も守られます。

### ●自分のペースで

- ・質問されても言いたくないことは言わなくて大丈夫です。
- ・相談したいことがあればスタッフに声をかけて下さい。
- ・互いの発言を受け止め、尊重しあう時間にしましょう。

## ■よりそいホットライン

すべての人を「一人にしない」「社会から切り離さない」ことを目指して、24時間通話無料で電話相談に取り組んでいます。電話ガイダンスに従って、相談内容を選べます。

セクシャルマイノリティ  
専門回線もあります。  
(4番を選択して下さい)  
Tel/0120-279-226



## ■東北HIVコミュニケーションズ

HIV感染症(エイズ)によって、自らの生命や生き方に影響を受けた人々が共に生きる社会をつくることを目的とし、1993年12月に設立。疾病やセクシュアリティなどに刻まれたスティグマ(汚名、恥辱などの意)を克服し、自らの力を回復して、自己決定して人生を歩むことができるよう、様々な集いの開催や相談活動、人材育成を行っています。



エイズ電話相談/022-766-8699  
(第2・4土曜日、18～21時)

## ■みやぎ男女共同参画相談室 / LGBT(性的マイノリティ)相談

男女共同参画相談員によるLGBT相談を実施しています。要望により予約面談も受け付けています。

電話相談/022-211-2570

(毎月第2・4火曜日、12～16時。祝・休日を除く)

編集後記/たくましく暮らすなみさんファミリーに心打られました。性的マイノリティの人々の権利が尊重されるよう社会を変えていきたいと感じました。(編集部)

●ご意見、ご感想、質問などお寄せください  
にじいろキャンパス SENDAI/にじのたね係

## 多様な性のあり方の理解と課題の可視化について 多様な協働の場を創出する事業 市民協働事業提案制度

### ～にじいろ協働事業～

市民の一人ひとりが「多様な性」を自分事としてとらえられることを目的として「にじいろスピーカー派遣」「にじのたね」「にじのひろば」「せんだいレインボーDay」の4つの事業を展開しています。東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろキャンパスSENDAI」を構成して推進します。

- ①にじいろスピーカー派遣  
多様な性のあり方についての講座などお手伝いします。
- ②ニュースレター・にじのたね  
仙台市の施設などで配布し、市民に広く啓発します。
- ③コミュニティスペース・にじのひろば  
仙台市男女共同参画推進センターで来場者とコミュニケーションしながら、情報を紹介したり、必要に応じてサポートを提供します。
- ④啓発イベント・せんだいレインボー Day  
多様な性のあり方に触れられるイベントです。

にじいろキャンパスSENDAI

(東北HIVコミュニケーションズ、性的マイノリティもそうじゃない人も含む市民有志、仙台市で構成)

事務局 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2  
みやぎのいのちと人権リソースセンター内  
東北HIVコミュニケーションズ  
TEL/FAX 022-298-8532  
[E-MAIL] office@sendai-nijihiro.org  
[HP] http://sendai-nijihiro.org



発行 にじいろキャンパスSENDAI  
発行日 2020年1月26日  
デザイン・編集 トト、ライティング  
発行部数 5000部  
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗  
市内外の男女共同参画センター